

— 姫路市辻井遺跡出土木簡の再釈読 —

難波津の歌の資料 出土文字資料などに記された難波津の歌は、その可能性のあるものも含め30件余の事例が報告されている。うち、下の句まで記された事例は、藤原京跡左京七条一坊西南坪（飛鳥藤原第115次調査）、平城宮跡（平城第316次調査）、高岡市東木津遺跡の出土木簡など数例に限られていた²⁾。本資料は、下の句まで記した難波津木簡としてはもっとも早く出土したもので、奈良時代前半における畿内近国での文字文化の伝播を考えるうえでも、貴重な事例といえよう³⁾。（山本 崇）

Four vertical strips of ancient Chinese bamboo or wood slips, showing fragments of text in seal script. The strips are arranged side-by-side, with some showing clear characters like '知' (know) and '是' (is/this).

48 奈文研紀要 2006